

京都は寒さたけなわ、といった感じですが皆様いかがお過ごしでしょうか？先週何気なく夜のニュースを見ていると、澄み切った冬の青空を横切ってまばゆいばかりの閃光を放つ隕石が飛んでゆく映像が目に飛び込んできました。何やら10数年前に公開され日本でもヒットしたハリウッド映画の1シーンを彷彿させる映像でしたが、これでも長い地球の歴史から見ると、「小石」の落下ぐらいのものようです。いろいろ調べてみると、南アフリカにあるフレデフォート・ドーム (Vredefort dome. 興味がある人は Google Map の航空写真で見ると面白いです。ただし、縮尺を十分大きく取って下さい) を作った隕石は直径10km ぐらいあったようで、こんなのが落ちたのでは YouTube に投稿するどころか、ニュースを見る人すらいなくなっているかも知れません。

ところで、オンライン雑誌としての新しい「物性研究」のスタートからもうすぐ一年になろうとしていますが、皆様新しい「物性研究」はいかがでしょうか？先日、ある研究者の方に原稿の依頼の件でコンタクトを取る機会がありました。その方がご自身のHP上に作成しているノートが大変よくできているので、ぜひ物性研究の講義ノートに、と思ったのですが、十分に推敲を重ねていつかは教科書として出版したい、という考えをお持ちだったようで、その他の事情も考慮した末丁寧なご辞退の返事をいただきました。オンライン雑誌における原稿集めというものはなかなか簡単ではないのかも知れません。

ひとつには文化の違いというものもあると思います。先日同僚の high-energy の研究者と雑談をしていて、彼らの業界で現在ほどの辺の雑誌に投稿するのが一番 prestigious なのか聞いてみたところ、私もいくつか論文を読んだ（そしてよくわからなかった）ことのある、あるオンライン雑誌の名前が返ってきました。彼らの業界では、プレプリント番号しかついていない (classic と呼んでもいいような) 「有名な」論文や講義録というのがよくあるのを知っていたので、彼らの間での arXiv やオンライン雑誌の位置づけについて少し話を聞いてみました。すると、論文を arXiv なり何なりの形で世に出した時点で良い仕事はちゃんと評価されるので、それが最終的にどの雑誌に出版されたかは二の次であるとのこと。物理学者ではないですが、かのペレルマンにいたっては、一応自分としては完成をみたと考える「証明」を WEB 上で公表した以上、そのうえ面倒な査読プロセスの必要な専門誌に（その結果の重大性にもかかわらず）投稿する必要すら認めなかったのです。私も属するいわゆる凝縮系物理のコミュニティでは、論文はきちんと査読を経て学術誌に出版されてこそ価値があるという見方が主流なので、arXiv の論文は最終的な出版までのもの、と考えられていると思います。物性でも、最近はそれなりに評価されているオンライン雑誌が増えてきていますが、今後物性でも arXiv にしか出ていない classic な論文というのが出てくるのでしょうか？ 自分でトライするかは別として、個人的には、未出版なのにもものすごい数引用されていて誰もが知っている仕事、というのもちよっと格好いい気もしますが...

(K.T.)